

第4次清川村総合計画策定に向けた
村づくりワークショップ

提案書

令和5年3月

目次

I. 村づくりワークショップの取組

1. 村づくりワークショップとは 2
2. 本書の目的 2
3. 総合計画について 2
4. 村づくりワークショップの検討経過 3

II. 村づくりワークショップ提案

1. 提案書の見方 6
2. 重要度 6
3. テーマ別提案 7
4. 将来像 19
5. 将来目標人口 21

III. 資料編

1. 第1回村づくりワークショップ 24
2. 第2回村づくりワークショップ 28
3. 第3回村づくりワークショップ 32
4. 第4回村づくりワークショップ 36
5. 第5回村づくりワークショップ 40
6. 村づくりワークショップの記録 44

I. 村づくりワークショップの取組

1. 村づくりワークショップとは

清川村では、新たな総合計画の策定を令和3年度から3か年かけて進めています。令和4年度には、村民と一緒に村の将来を考えていく村づくりワークショップを開催しました。

ワークショップは、村民と役場（行政）が協働で計画づくりを進める手法の一つで、さまざまな年代や立場の人々が集まり、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら意見や提案をまとめ上げていく取り組みです。

このワークショップには、公募により17名の村民が委員として参加しました。

2. 本書の目的

新たな総合計画は、令和6年度から令和15年度までの10年間の計画となります。村づくりワークショップの目的は、総合計画をより良い計画とするために、委員が村での生活者として、これからの村づくりについて意見を出し合うことにあります。

このことから、村づくりワークショップでは、おおよそ10年後、あるいはさらに先の将来を見据え、日ごろから問題や課題に感じていること、維持・継承していったほうが良いと感じること、村を良くしていくために提案したいことなど多岐にわたるアイデアを出し合いました。

そして、村づくりワークショップで出されたすべての意見の趣旨や参加した委員の想いを総合計画に反映することができるように、「村づくりワークショップ提案書」としてまとめました。

3. 総合計画について

総合計画は、村の最上位計画として位置付けられ、計画期間は10年間です。計画では、村の現状や課題などを踏まえ、「基本構想」として「村づくりの基本理念」や「村の将来像」などを定めます。

また、その基本構想の実現のために、「村政の基本的な方向性」を定めます。そして、教育、福祉、産業、まちづくりなどの各分野において、取り組むべき基本的な施策を総合的、体系的に示し、事業の整合性を図りながら、効率的に村政を進めるための計画になります。

このことから、総合計画は村や村民にとっての、いわば羅針盤のようなものであり、中長期的な視点から計画的な村づくりを進める上で必要不可欠な計画です。

4. 村づくりワークショップの検討経過

村づくりワークショップは、次のようなステップで検討を行い、提案書をまとめました。

10月	11月	1月	3月	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・村の現況 ・「活用できる資源」「現状の課題」についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・村づくりアンケート ・テーマごとの「10年後」についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに「村民自身ができること」についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「村づくりワークショップ提案」に向けたより具体的な検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・村の将来像の検討 ・将来目標人口の検討

回	開催日	会場	参加委員
1	令和4年10月2日	生涯学習センターせせらぎ館 2階 みどりホール	11名
2	令和4年11月6日		8名
3	令和4年11月27日		12名
4	令和5年1月29日		12名
5	令和5年3月5日		11名



【第1回村づくりワークショップ】 岩澤村長による講話

Ⅱ. 村づくりワークショップ提案

1. 提案書の見方

次ページからが、村づくりワークショップにおける提案となります。提案は以下のとおり、12のテーマごとに4つの視点から検討し、それぞれの内容を記載しています。

○ 検討テーマ

	テーマ
1	観光
2	産業
3	移住促進
4	教育・子育て
5	生活利便性
6	交通
7	協働
8	文化
9	環境
10	シティセールス
11	コミュニティ
12	福祉

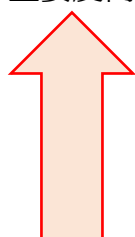
○ 検討の視点

	視点
1	現況と課題
2	将来の姿
3	施策の方向
4	事業内容の提案

2. 重要度

ワークショップで検討したテーマは、すべて重要視すべきものであると考えています。その中でも、「重要なもの」、「かなり重要なもの」、「特に重要なもの」とし、3段階のランク付けを行っています。

重要度高



「特に重要なもの」・・・★★★

「かなり重要なもの」・・・☆★★

「重要なもの」・・・☆☆★

3. テーマ別提案

テーマ1 観光

重要度★★★★

現況と課題	<p>【宮ヶ瀬を活かしきれていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設がない ・駐車場が少ない ・湖面の利活用を促進
	<p>【対外的なPR力の不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬以外にもステキなスポットはある ・PRや観光誘致が甘い
将来の姿	<p>【村外へのPRを強化し観光を振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の公式SNSアカウントで周知を
	<p>【宮ヶ瀬湖にしかない魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模湖や津久井湖との差別化
施策の方向	<p>①新たな観光資源の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進自治体の取り組みを分析しては ・新たなお土産づくり
	<p>②観光客を誘致する工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータルサイトを作成 ・施設のリニューアル ・村民の自発的な観光資源づくりに対する行政の支援が必要
事業内容の提案	<p>①「清川時間」の公募・発信 村民が、村内でどのような時間を過ごしているのか公募し、SNSなどで発信。観光客に対し、地域の新たな楽しみ方を伝える。</p> <p>②指定管理者の活用方法の拡充 イベントアイデアや村として指定管理者に期待すること、行ってほしいことなどを村民から募る。</p> <p>③有志団体の設立支援 観光プロモーションを行う専門組織の立ち上げ及び運営を支援し、村民有志による観光客招致を後押しする。</p> <p>④新たな湖面利用の手法検討 湖ならではのウォータースポーツやアクティビティへの活用を検討し、新たなターゲットの獲得。</p>

テーマ2 産業

重要度★★★★

現況と課題	<p>【観光資源や地域特性を産業に活かす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジビエを活用できるのではないか ・宮ヶ瀬湖などのすでにある観光資源を活用すべき
	<p>【企業誘致の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致が少ない
	<p>【地域特性を活かした産業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林・河川・自然を活かした地域産業の創出 ・山の仕事は若い労働力を必要とする
	<p>【起業家への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗してもやり直しがきくような環境づくりが必要 ・空き家を活用することも可能
将来の姿	<p>【労働力の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人がいなくなると衰退するため、林業を中心に振興することで若い労働力を確保
	<p>【地域特性を産業化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジビエを活用しビジネス化することで、鳥獣被害の防止につながる。 ・キャンプギアメーカーなどの誘致も効果的ではないか。 ・村産の野菜を提供してくれる飲食店が増えると良い。
施策の方向	<p>①企業誘致や起業支援により新たな産業を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化の推進 ・村づくり会社のようなものがつくれると良い ・目玉商品があると良い
	<p>②今ある資源を活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わさびなどきれいな水を活用した産品が作れないか ・ダム施設を活用した産品づくりができないか ・川の水を利用した発電設備
事業内容の提案	<p>①村内既存企業との連携強化</p> <p>お茶、ブランド豚等の食品関係の商品のほか、竹炭や木酢液等地域内での循環も見込めるような商品の開発。</p> <p>②まちづくり会社の設立</p> <p>全てボランティアではいずれ立ち行かなくなる懸念もあることから、支援制度を設けたうえで民間の力を入れてはどうか。</p>

テーマ3 移住促進

重要度★★★★

現況と課題	<p>【住宅の供給量が少ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家は多いが住める家が少ない ・土地の活用が難しい
	<p>【住むうえでのメリットは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車庫証明が不要なのは一種の魅力なのではないか ・土地代が比較的安い ・施設が一か所に集約しているのは強み
将来の姿	<p>【居住環境・労働環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家は、居住環境整備だけでなく、企業誘致などにも活用し、雇用の創出によりU・Iターンを促進する環境を整える。
	<p>【包括的な取り組みの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を改修して宿泊所とし、ふるさと納税の返礼品として用意する、林業や農業など地域産業の雇用を促進するなど、他分野と相乗的な取り組みにより労働人口の確保を図る。
施策の方向	<p>①限られた土地を最大限に活用した住宅の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長屋・ファミリータイプのシェアハウスを整備し、1棟で複数世帯が居住できる環境
	<p>②空き家の供給量増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家だらけになってしまうのは避けたいので、利活用の推進や維持管理を行う必要がある
	<p>③移住しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫校を、地域の魅力として発信 ・日常生活品を取り扱う商業施設が不足している ・親子が楽しめる公園などの施設が必要 ・働く場がなければ移住しづらいので、企業誘致を促進する
事業内容の提案	<p>①更なる空き家の活用と移住者への供給</p> <p>空き家の片付け、クリーニング等への支援を拡充し、貸し出しやすい制度の構築。</p> <p>②移住者を迎え入れる環境構築</p> <p>就労や通勤、通学のほか、日常生活においても移住後に不便を感じない仕組みや支援制度の構築。</p>

テーマ4 教育・子育て

重要度★★★★

現況と課題	<p>【子どもがのびのび育つ環境不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な支援は比較的充実しているが、公園や遊具といった施設がない
	<p>【幼・小・中の距離感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間の距離が近いのは他にない魅力 ・学校行事が充実している。連携事業もある
将来の姿	<p>【子どもが育つ環境・子どもを育てる環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでも安心して遊べる公園があれば、親の負担も減る ・待機児童0を今後も継続 ・託児環境を整備し親のリフレッシュの機会を
	<p>【一貫校の多機能化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習が可能な機能を持たせ、学生と一般との交流、世代間交流が可能な施設にすべき ・幼児にも対応 ・地域が積極的に関わる
施策の方向	<p>①一貫校の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民も授業の手伝いができる ・学校の魅力は SNS で発信
	<p>②村全体で子どもを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て経験者による子育て相談室 ・登下校の見守り
	<p>③村はパイプ役に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・団体・学校などをつなぎ、村民が持つ経験や知識を活用しては
事業内容の提案	<p>①「村民先生」による郷土愛の創出</p> <p>学校施設等を活用し、村民から子どもたちへの文化伝承の機会を設けることで、郷土愛を育むとともに村民の生きがいづくりの場とする。</p> <p>②教職員に村民を積極採用</p> <p>学校教育を世代間交流の場ととらえ、特色ある教育現場を創生する。</p> <p>③村全体で子どもを見守る体制の継続</p> <p>登下校時の放送などにより、地域で子どもを見守る意識の醸成。</p>

テーマ5 生活利便性

重要度☆☆☆

<p>現況と課題</p>	<p>【小売店・商店が少ない】 ・スーパーや個人商店が少なく、買い物に不便を感じる</p> <p>【都心との距離感】 ・東京は「近くて遠い」</p> <p>【通信】 ・Wi-Fiが遅い</p> <p>【交通安全】 ・狭い道路が多く、休日に交通量が増加することで安全確保が困難なエリアがある ・走り屋がうるさい ・自転車用道路がなく危険</p>
<p>将来の姿</p>	<p>【都会のような便利さは求めている】 ・ある程度の不便さは覚悟の上で清川村を選んでいる。その不便さを楽しめる村であってほしい ・便利さを求めすぎて、豊かな自然を失うことがあってはならない</p>
<p>施策の方向</p>	<p>①村民どうしの助け合いを促進 ・店舗数が問題ではなく、店舗までの距離や足が問題であるので、買い物代行など近隣住民どうしの助け合いを支援してはどうか</p>
<p>事業内容の提案</p>	<p>①高齢者へタブレット端末を配布 情報発信手法の変化を見据え、情報取得機能に特化したタブレット端末を配布する。村内施設の利用予約や村内店舗での通信販売機能へと拡充することで、高齢者の生活利便性の向上へとつながる。</p> <p>②電子機器・アプリケーション利用講習会の実施 高齢者等への利用指南により、全ての村民がデジタル化による恩恵を受けられる体制を構築する。地域単位で実施することで、地域コミュニティの活性化にも期待が持てる。</p>

テーマ6 交通

重要度☆☆☆

現況と課題	<p>【公共交通の不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数・路線が少なく利便性が悪い ・自家用車がなければ移動が難しい
将来の姿	<p>【公共交通以外の手段の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村バスの運行の必要性 ・コミュニティバスや乗用車の相乗りを活用した交通空白区間の解消
施策の方向	<p>①現状の交通手段を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線の廃止や早朝・深夜バスの廃止は避けたい
	<p>②コミュニティ交通の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村民の運転手を育成し、コミュニティバスを運行する
事業内容の提案	<p>①既存バス路線の堅持</p> <p>路線バス利用を促進するため、利用者・路線バス事業者双方への支援を継続。</p> <p>②オンデマンド交通の導入促進</p> <p>交通空白区間の解消のため、地域での乗合いを促進。利用希望者と運転者のマッチングが可能なシステムの検討。</p>

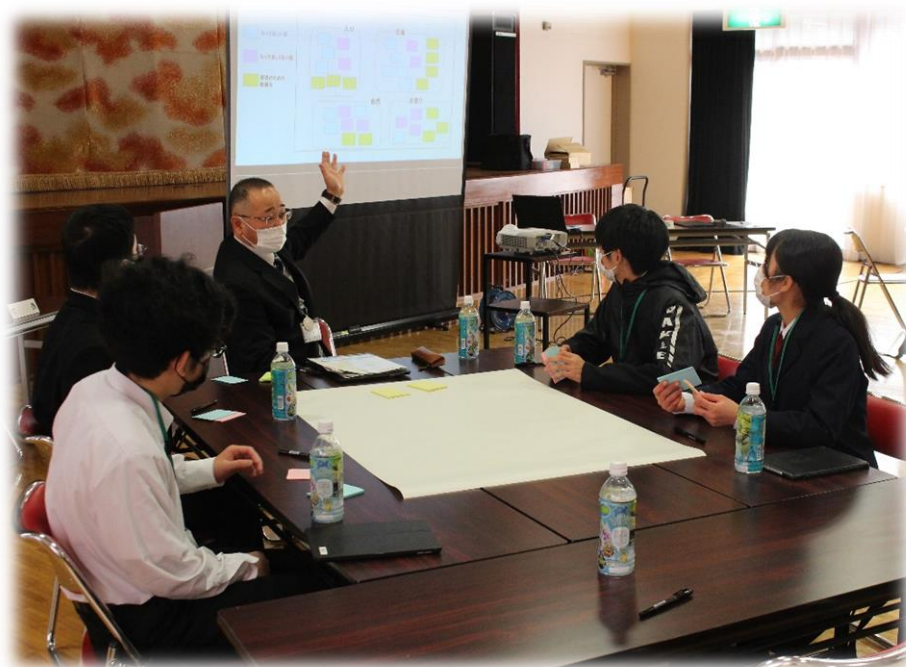


神奈川中央交通

テーマ7 協働

重要度☆☆☆

現況と課題	<p>【村民と行政の距離感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村民と行政の距離が近い
将来の姿	<p>【参画機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの常設会議があり、村民の意見が村政に反映される ・マイノリティや外国人が共に暮らせる
施策の方向	<p>①村民1人1役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会や委員会への参加を促進 ・村民単位での役割分担
事業内容の提案	<p>①「1人1役運動」キャンペーン</p> <p>村民一人ひとりが村政の主役であり、担い手であると印象付けることで村民の主体性を見出す。</p> <p>②既存組織の体制見直し</p> <p>自治会長や当番員のように、組織役員として矢面に立つことに対して嫌悪を抱く者や年齢、家庭の事情により役員ができないために組織に属さないといった者が増えていることから、それぞれの組織体制の見直しをサポート。</p>



中学生ワークショップ

テーマ8 文化

重要度☆☆☆

現況と課題	<p>【存続に危機感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の継承者が少なく、団体の存続が危機的
将来の姿	<p>【形だけでない継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形骸化した祭りが継続していても意味がない。想いや背景など伝統そのものを引き継いでいく必要がある ・複数の祭りが活発に行われているのが望ましい
施策の方向	<p>①伝承の機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手を確保するため、機会の創出や育成に向けた支援が必要 ・地域のお祭りの継承が活性化につながる。村民や自治会などを巻き込み、参加意識を高めていく
事業内容の提案	<p>①文化協会所属のメリットを明確化</p> <p>文化活動をしている団体・村民はいるものの、協会の存続が困難となっているのは、協会に属するメリットがないためであると思われる。発表機会の提供や各種サポート等、文化・伝統を伝承していく過程におけるメリットの創出が必要。</p> <p>②教育分野と連携した伝承機会の創出</p> <p>学校と地域とのふれあいの機会を増やし、伝統や文化を次世代を担う子どもたちへ伝承する。</p>



藁すぐり

テーマ9 環境

重要度☆☆★

現況と課題	<p>【ごみ・不法投棄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみのポイ捨てや不法投棄により景観に影響 ・クリーンキャンペーンの参加者が少ない
将来の姿	<p>【村民一人ひとりの意識付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつなどの声掛けで、ポイ捨てのしづらい環境づくり
施策の方向	<p>①話題性のある対策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨ての罰金が日本一高いなどの特徴ある条例の制定 ・不用品リサイクルのためのサービス提供 <p>②既存事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンポストの活用促進
事業内容の提案	<p>①「あいさつの村」を印象付けるキャッチコピーの検討</p> <p>村を挙げて取り組みを強化していくことを印象付けるフレーズを周知し、あいさつからコミュニケーションを深めていく。来村者に対しても分け隔てなくあいさつする習慣づけを行うことで、地域全体の防犯力を高め、不法投棄の抑止も期待できる。</p> <p>②村民間のリサイクルを促進</p> <p>村民どうしで不用品を循環できる仕組みを構築し、廃棄物の減量を図る。</p>



クリーンキャンペーン

テーマ 10 シティセールス

重要度☆☆★

現況と課題	<p>【PRの手法が弱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の魅力が村外にうまく伝わっていない ・SNS等の活用がされていない
将来の姿	<p>【上手な情報発信で多くの分野が活性化するには】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSによるイベントの告知で観光客の増が見込める ・ふるさと納税の目玉をPRすることで、収入の増加と魅力の向上 ・林業の魅力をPRし地域産業の振興を図る
施策の方向	<p>①積極的なプレスリリース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村外への積極的な情報発信 ・行政がわかりやすい情報発信を行う <p>②SNSの積極活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSが使えない人に使用方法を教える <p>③村民の情報発信能力の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSのシェア機能などを使い、村民個人の能力を活用した情報発信の手法の検討
事業内容の提案	<p>①村民からの写真公募</p> <p>コンテストのようにハードルの高いものではなく、SNS感覚で気軽に投稿できる写真掲載ページを作成する。また、投稿された写真は二次利用が可能なものとし、企業や団体の利用を促すことでプロモーションを図る。さらに、公募写真を広報紙面等で使用することで、愛着のある紙面づくりを目指す。</p> <p>②SNSでの情報発信</p> <p>情報を取得しに行かなくても情報が入手できる仕組みの導入が必要。情報取得の手軽さを高める。</p>

<p>現況と課題</p>	<p>【近隣住民の距離感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民との距離が近く、顔なじみが多い ・都会に比べて他者とのつながりが多く、深い
<p>将来の姿</p>	<p>【自治会機能の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未加入世帯への対策が必要。加入促進の強化。 ・災害時の要支援者の把握、避難経路等の把握がされ、地域内での安全確保体制を整える <p>【消防団機能の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常備消防ができたとはいえ、消防団活動が衰退してはならない。消防団活動を推進することがコミュニティの発展や維持につながる
<p>施策の方向</p>	<p>①自助・共助の意識醸成による安全・安心な村づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守り隊を増員 ・村民の中での情報共有・情報発信の仕組み ・女性消防団の創設 <p>②日常生活からの村民交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く保護者に対する預かり保育を村民が行える仕組み ・助け合いから生まれる村民相互の交流の場づくり <p>③防災機能を備えた施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常は多世代の交流施設として、災害時は避難所機能を備えた防災拠点としての活用
<p>事業内容の提案</p>	<p>①村民の情報発信の場を創出</p> <p>広報紙等に村民が情報を発信できる場を設けることで、村民どうしが互いを知るきっかけをつくる。</p> <p>②既存事業との抱き合わせイベントの開催</p> <p>比較的多数の参加が見込める防災訓練やクリーンキャンペーンなどに併せ、地域住民による懇親会を開催し、親睦を深める。</p> <p>③新たな自助組織の創設</p> <p>女性消防団をはじめとする、目的を持った新たな自主組織を創設し、地域内での情報共有の場とする。</p>

テーマ 12 福祉

重要度☆☆★

現況と課題	<p>【高齢者福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援が少ないと感じる ・高齢者の知識や経験を活かす場がもっとあって良い
	<p>【医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院が少ない
将来の姿	<p>【健康長寿の村づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な体力づくりの教室が開催される。 ・高齢者の知識や経験を活かし、学校や子育て相談などの働く場を設ける。
施策の方向	<p>①村民の識見を活用したボランティアの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての支援 ・高齢者の生活支援
	<p>②世代間交流の場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと高齢者の交流の場
事業内容の提案	<p>①地域住民が集う場所の確保</p> <p>自治会館等の公共施設の運用方法を見直し、地域住民が集まりやすい場所を確保するとともに、サロンなどの自主的な活動を後押しする。</p> <p>②幅広い年齢層が参加できる催しの開催</p> <p>高齢者などの特定世代にフォーカスした催しだけでなく、ヨガや茶会など多くの世代が集まって楽しむことができる新たな催しの検討。</p>



ヘルスアップ・未病改善ウォーキング

4. 将来像

(1) 検討の前提

第3次清川村総合計画では、将来像を以下のように定めています。

将来像：～水と緑の心の源流郷～

これは、豊富な森林と美しい清流を保全し、良好な自然環境の中で、地域のみんなの心が通い、支え合う暮らしを維持しながら、誰もが安心して暮らし、かつ災害や犯罪の少ない安全な村の姿を思い描き、新（第2次）清川村総合計画から変わらない理念として引き継がれています。

また、この将来像の実現に向け、世代・性別や分野を問わず、村民全員が村に強く関心を持ち、村の魅力を高めることを表現するため、以下のように副題を定めています。

副 題：輝き・愛着・誇りを育む村づくり

これらの背景と、全5回にわたり開催した村づくりワークショップにおける検討内容を勘案し、次期総合計画において目指すべき村の将来像を、次のとおり提案します。

(2) 村づくりワークショップにおける将来像の提案①

<将来像案①>

水と緑とこころのふるさと

<提案の趣旨>

第3次清川村総合計画基本構想に掲げる将来像の理念は時代によって左右されることのない不変のものであります。先人たちが築き上げた郷土の誇りを伝え継ぎ、後世に残していくことが、現代を生きる私たち村民の使命であり、願いでもあることから、基本的な考え方については次期計画においても引き継ぐこととします。

しかし、社会情勢の変化に伴い、現行計画の策定当時に比べ村内の活気が薄れてきていることも事実であります。私たちは、かつての賑わいを取り戻し、改めて村民全員が村に関心を持つとともに、村の魅力を高めていくという想いを込め、「心」をひらがなに、「源流郷」をふるさと(故郷)に変更することとします。

清川村民は、苗字でなく名前でお互いを呼び合い、困ったときは助け合う共助の精神を持ち、また、行政との距離が非常に近いといった独特の地域性を有しています。「こころ」は、そのような村民相互の絆、また、村民だけ

でなく行政や企業など村に関わる人との絆を表しています。

また、「ふるさと」は、誰もが故郷を感じるどこか懐かしい雰囲気や、全ての人に“おかえり”と言って受け入れる地域のあたたかみを表現しており、これからの目指すべき村の姿をより直感的に伝えることができるフレーズとしています。

<将来像案②>

日本で一番〇〇な村

<提案の趣旨>

“〇〇”の部分は、あくまで“空白”であり、これは、村民一人ひとりが10年後の村の姿を自由に構築できるという意図を含んでいます。

村づくりワークショップでは、「村民1人1役」という考え方を根底に議論を進めてきました。より良い村づくりを推進するにあたって、村民一人ひとりが主役であり、主体的であるべきです。そのため、“〇〇”にあたる部分は、村民の数だけ存在し、その時代、その立場に合わせて多様に表現できるように、あえて“空白”としています。

また、末尾は「村」とすることで、神奈川県唯一の村としての誇りや郷土愛を表現しているほか、方言を用いるなどして将来像を表現することで、愛着を深めることができるのではないかと考えます。



5. 将来目標人口

(1) 検討の前提

第3次清川村総合計画においては、将来目標人口を3,500人としています。

これは、過去の村の歴史の中で、人口バランスが維持され、最も村に活力があった時期（およそ平成2年～22年の20年間）の人口規模が3,500人規模で推移していたことが背景とされています。

しかし、近年の少子高齢化や東京一極集中などの社会情勢から全国的な人口減少・人口流出が続いており、2020年国勢調査における本村の人口は3,038人、2045年には2,007人まで減少するという推計がされています。

そのような中、村づくりワークショップでは、前述の将来像を具現化するために必要な人口規模を以下のように設定することとし、提案します。

(2) 村づくりワークショップにおける将来目標人口の提案

2035年の将来目標人口を 3,000人 とします。

(3) 提案の趣旨

第3次清川村総合計画における将来目標人口は、最も人口バランスが維持され、また、公共施設を効率的に運用できる人口規模として設定されています。これらの背景を鑑みれば、3,500人を目指す必要はあると思いますが、一方で、国内全体の傾向として人口減少、少子高齢化が進行していることや本村の将来人口推計についても人口減少の一途を辿るという結果が出ている中で、達成が困難と分かっている目標値を設定することは無責任であるとも考えます。

下限値として現在の人口規模よりも少ない目標値を設定し、インフラを縮小することで行政サービスを維持するという考え方もありますが、安易に目標を下げることで、現状に甘んじ、発展が見込めなくなるという懸念もあることから、村づくりワークショップでは、人口増の取組みを引き続き継続しつつも行政サービスが維持され、地域が停滞しない程度の人口規模である3,000人を目標人口として設定します。人口増にこだわりすぎず、現状の人口水準を維持しながら、郷土愛を醸成し、将来にわたって地域を守り抜く意識を持った村民の割合を増やしていくことが重要だと考えています。

なお、3,000人という数値はあくまで2035年時点での通過点であると考えています。村が持続的に発展していくために必要な人口規模は、3,500人であり、2035年以降に達成していくための準備期間として、現状の人口規模を維持していく必要があるものと考えています。

III. 資料編

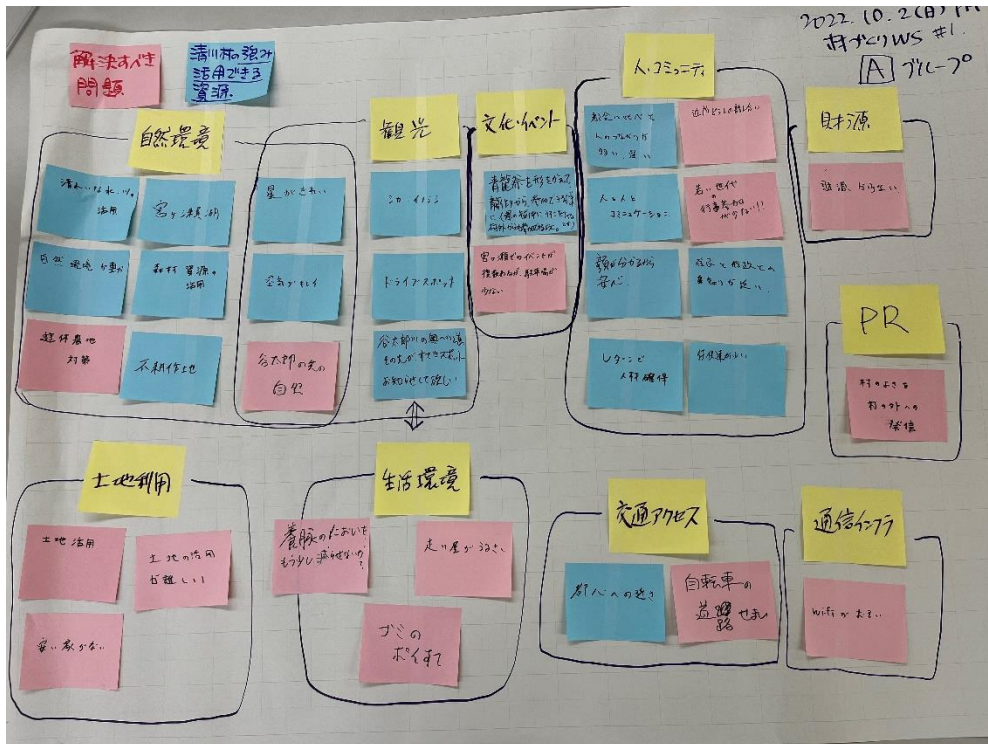
1. 第1回村づくりワークショップ

(1)開催概要

日 時	令和4年10月2日（日）午後1時30分～午後4時
場 所	生涯学習センターせせらぎ館2階・みどりホール
出 席 者	委員11名
内 容	(1)開会・委嘱状交付 (2)村長講話 (3)総合計画の概要・村の現況について (4)ワークショップの進め方 (5)グループ討議 (6)発表・共有
検討テーマ	●清川村の強み・活用できる資源 ▲解決すべき問題

(2)討議概要

【Aグループ】



自然環境

- きれいな水、川の活用
- 宮ヶ瀬湖
- 自然環境が豊か
- 森林資源の活用
- 休耕作地
- 星がきれい
- 空気がキレイ
- ▲遊休農地対策
- ▲谷太郎の先の自然

観光

- 星がきれい
- 空気がキレイ
- シカ、イノシシ
- ドライブスポット
- 谷太郎川の奥への道その先がステキスポットお知らせして欲しい
- ▲谷太郎の先の自然

文化・イベント

- 青龍祭を形をかえて龍作りから参加できる様に(祭の午前中にうろこをつけるとか) 村外からも参加できるように
- ▲宮ヶ瀬でのイベントが複数あるが、駐車場が少ない

人・コミュニティ

- 都会に比べて人のつながりが多い、深い
- 人と人とコミュニケーション
- Uターンで人材確保
- 子供達が少い
- ▲若い世代の行事参加が少ない
- 顔が分かるから安心
- 住民と行政との距離が近い
- ▲近所どうしの話し合い

土地利用

- ▲土地活用
- ▲安い家がない
- ▲土地の活用が難しい

生活環境

- ▲養豚のにおいもう少し減らせないか？
- ▲走り屋がうるさい
- ▲ゴミのポイすて

交通アクセス

- 都心への近さ
- ▲自転車の道路せまい

財源

- ▲財源が少ない

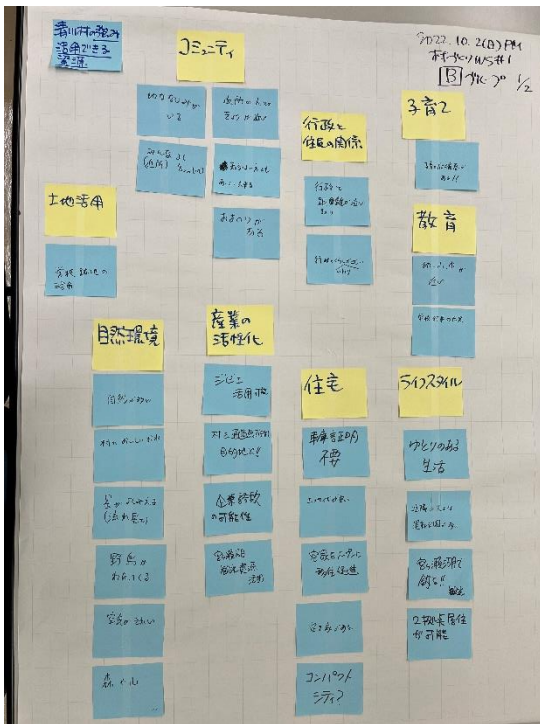
PR

- ▲村のよさを村の外への発信

通信インフラ

- ▲Wi-Fiがおそい

【Bグループ】



コミュニティ

- 幼なじみがいる
- みんな（近所）よく知っている
- 近所の人とか距離が近い
- おまつりがある

行政と住民との関係

- 行政と距離が近い
- 行政とくらしのキヨリが近い

子育て

- 子育て応援券がある

教育

- 幼・小・中が近い
- 学校行事の充実

土地活用

- 学校跡地の活用

自然環境

- 自然が多い
- 村の美味しいお水
- 星がよくみえる（流れ星も）
- 野鳥がわたってくる
- 空気がきれい
- 森や山

産業の活性化

- ズビエ活用可能
- 村を通過点ではなく目的地に
- 企業誘致の可能性
- 宮ヶ瀬湖観光資源活用

住宅

- 車庫証明不要
- 土地代が安い
- 空家をオープンに移住促進
- 空き家がある
- コンパクトシティ
- ▲住む家がすくない

ライフスタイル

- ゆとりのある生活
- 近隣に大きな運動公園が多い
- 宮ヶ瀬湖で釣を

観光

- 2拠点居住が可能
- ▲観光誘致が甘い
- ▲宮ヶ瀬 宿泊施設が無い
- ▲宮ヶ瀬観光が活かしきれていない
- ▲宮ヶ瀬湖で釣を

防災

- ▲ハザードマップ対策

自治会

- ▲自治会が不活発になった
- ▲御門橋あたりにゴミが落ちている。
- ▲クリーンキャンペーンの参加者が少ない

PR

- ▲PR強化すべき

村の財政

- ▲基幹産業への支援
- ▲企業誘致が少ない
- ▲財務の安定化

買物

- ▲スーパーが少なく買い物が不便
- ▲個人商店が少ない

交通

- ▲交通の便が悪いバス（遠へ）
- ▲車が無いと生活しづらい
- ▲土日の交通安全が難しいエリアがある
- ▲交通の便が悪い
- ▲街灯が少ない
- ▲宮ヶ瀬（観光）駐車場が少ない
- ▲ガソリンスタンドが少ない
- ▲神奈中 1日乗車券 観光客

公園

- ▲子どもが歩いていける公園が少ない
- ▲公園がない！
- ▲遊具がない！

「豊かさ」の中身

- ▲全国人口減において人口増を計画する施策
- ▲東京が近くて遠い

福祉

- ▲高齢の人の支援が少ない

医療

- ▲病院が少ない

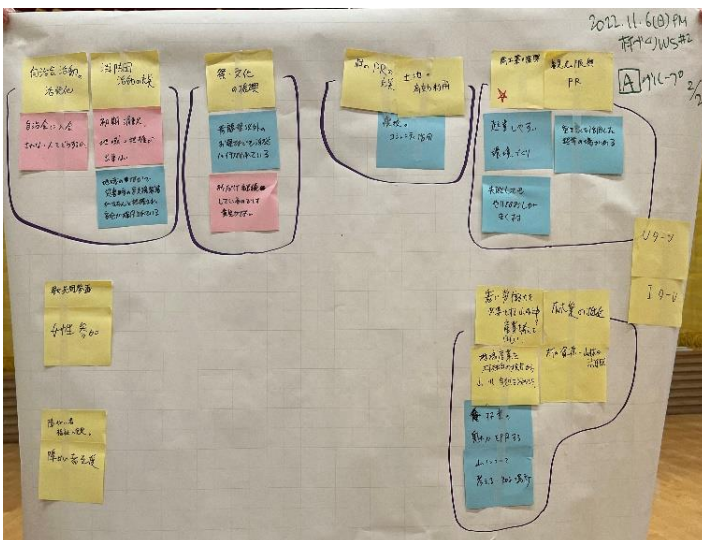
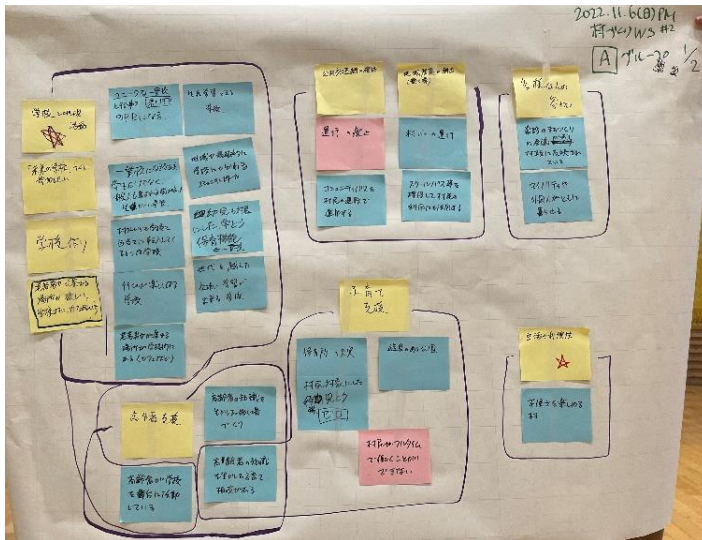
2. 第2回村づくりワークショップ

(1)開催概要

日時	令和4年11月6日(日)午後1時30分～午後3時30分
場所	生涯学習センターせせらぎ館2階・みどりホール
出席者	委員8名
内容	(1)前回の振り返り (2)村づくりアンケート中間速報 (3)グループ討議① (4)グループ討議② (5)発表・共有
検討テーマ	①前回討議内容の補強 ②テーマごとの10年後の姿 ●望ましい姿 ▲望ましくない姿

(2)討議概要

【Aグループ】



学校と地域活動、「未来の学校」づくりに参加したい、学校作り、老若男女が集える場所が欲しい。学校内にカフェがあれば！

- ユニークな学校とすることで清川村のPRになる
- 一貫校になるならば学生だけでなく一般人も集まれる場が良い！生涯学習
- 村外からも学校を目当てに転入してくるような学校
- 行くのが楽しくなる学校 ●生涯学習できる学校
- 老若男女が集まる場所が学校内にある（カフェなど）
- 地域が積極的に学校にかかわるコミュニティスクール
- 幼児も対象にした学どう保育機能←一貫校
- 世代を越えた交流・学習が出来る学校

【公共交通の確保】【地域産業の創出（働く場）】

- 村バスの運行 ▲運行の廃止
- コミュニティバスを村民の運転で運用する
- スクールバス等を確保して村民の利用にも活用する

多様な人の参加

- 常設のまちづくりの会議があり村政に反映されている
- マイノリティや外国人がともに暮らせる

高齢者支援

- 高齢者の知識を生かした働く場づくり
- 高齢者が学校を舞台に活動している
- 高齢者の知識を生かした子育て相談がある

生活の利便性

- 不便さを楽しめる村
- 保育所の充実 ●村民対象にした待機児童ゼロ
- 遊具のある公園 ▲村民がフルタイムで働くことができない

自治会活動の活性化、消防団活動の充実

- 地域の中で災害時の要支援者等がきちんと把握され安全が確保されている
- ▲自治会に入会しない人をどうするか ▲初期消火、地域の把握が出来ない

祭・文化の振興

- 青龍祭以外のお祭りなども活発に行われている
- ▲形だけ継続しているのでは意味がない

村のPRの充実、土地の有効活用

- 廃校のコミュニティ活用

商工業の進行、観光振興PR

- 起業しやすい環境づくり ●空き家を活用した起業の場がある
- 失敗してもやりなおしがきく村

若い労働力を必要とする山の仕事？産業を考えてほしい

地域産業を村独自の視点から山、川、自然を活かした、林業の推進

村の資源－山林の活用

●林業の魅力をもPRする

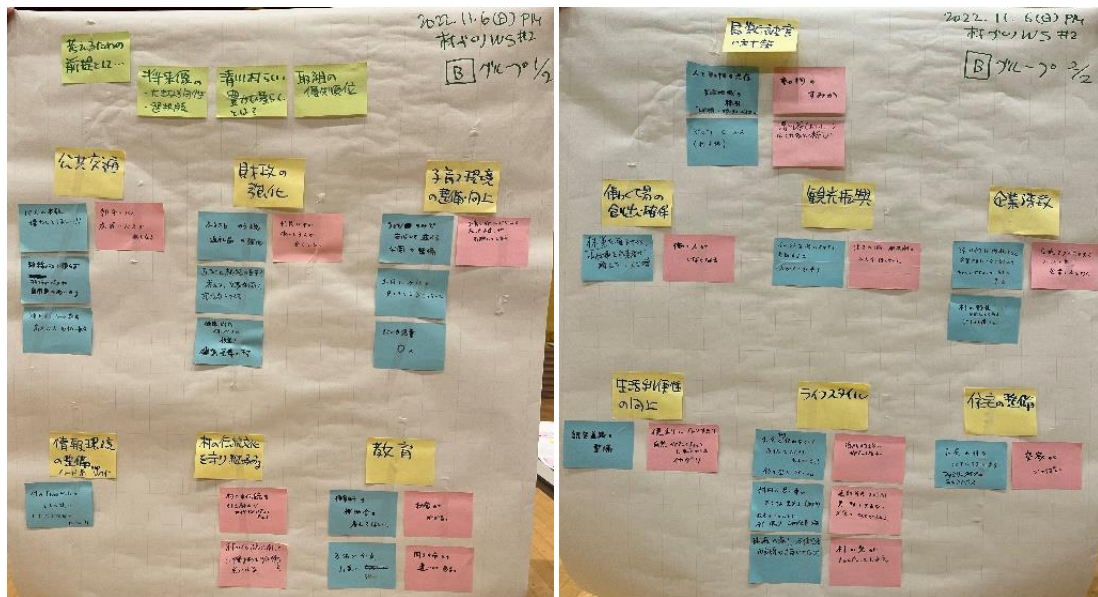
●山について考える・知る場所

男女共同参画、女性参加

障がい者福祉の充実、障がい者支援

Uターン、Iターン

【Bグループ】



公共交通

- バスの本数増やしてほしい!!
- 路線バスに頼らずコミュニティバスや乗用車のあいのり
- 清川村⇄新宿 高速バス 毎朝・毎夜
- ▲朝早いバス 夜遅いバスが無くなる

財政の強化

- ふるさと納税返礼品の強化
- ふるさと納税の目玉？考える。空家改修して宿泊券をつくる
- 健康的な体力づくりの教室！健康長寿の村
- ▲村民の中で働いてる人が全くいない

子育て環境の整備・向上

- 子どものみで安心して遊べる公園の整備
- 土日に子供を見てもらえるシッターさん
- 待機児童0人 ▲子育てがしづらくなった人達が引越してしまう

情報環境の整備 ハード面

●村のFree Wi-Fiがとても速い ノートPCで公園でテレワーク
村の伝統文化を守り継承する

- ▲村の伝統文化を引き継ぐ世代がいなくなる
- ▲村の伝統に関して八幡神社の存続？危うくなる

教育

- 授業料の補助金を考えてほしい
- 子供が全員山菜に詳しい
- ▲お金がかかる
- ▲周りの市との違いがある

鳥獣被害の対策

- 人と動物の共存
- ジビエビジネス（村主体）
- ▲動物のすみか
- ▲清川茶がなくなると寂しい

働く場の創出・確保

- 林業を盛えさせる。山仕事をする若者が増える・・・人口増
- ▲働く人がいなくなる

観光振興

- イベントを村のSNSで告知すると人がたくさん来る
- ▲津久井湖・相模湖にみんな行っちゃう

企業誘致

- 清川村に移住すると企業PRにつながる！のでキャンプギアメーカーなどが来る
- 村の野菜を出してくれるごはん屋さん
- ▲交通アクセスが悪くメリットが無い 企業が出ていく

生活利便性の向上

- 認定道路の整備
- ▲便利になりすぎて自然がなくなってしまうのはイヤダ!!

ライフスタイル

- お金をあまり使わなくても子供とたくさん遊べる!!釣り・登山・カヌー etc.
- 村内で習い事がたくさん出来る（親も!!）教室を探しやすい
ex. 釣り・山の仕事・畑
- 現在の楽しい老後生活 10年後も続いてほしい ▲近所付き合いがなくなる
- ▲通勤片道2時間 買い物も出来ない 不便でストレスがたまる
- ▲村のつながりがなくなってしまう

住宅の整備

- 長屋のようなシェアハウスが来る ファミリータイプのシェアハウス
- ▲空家がいっぱい

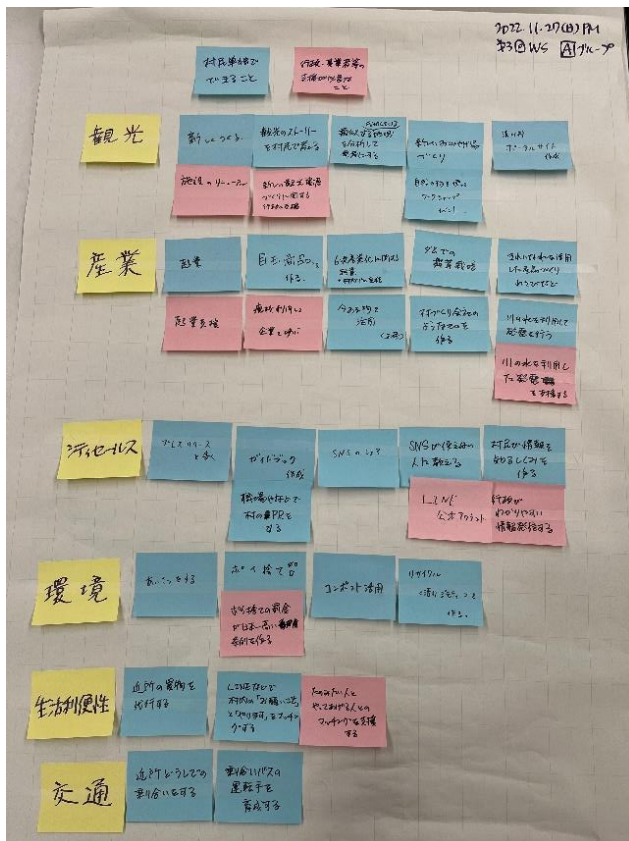
3. 第3回村づくりワークショップ

(1)開催概要

日 時	令和4年11月27日(日) 午後2時～午後4時
場 所	生涯学習センターせせらぎ館2階・みどりホール
出 席 者	委員11名
内 容	(1)前回の振り返り (2)全体討議 (3)グループ討議 (4)発表・共有
検討テーマ	①各テーマのランク付け ②各テーマについて、自分たち(村民)ができることは何か ●村民ができること ▲支援を要すること

(2)討議概要

【Aグループ】



観光

- 新しくつくる
- 観光のストーリーを村民で考える

- 類似する成功している地域を分析して参考にする
- 新しいお土産づくり
- 自然の物を使ってワークショップイベント
- 清川村ポータルサイトを作成
- ▼施設のリニューアル
- ▼新しい観光資源づくりに関する行政の支援

産業

- 起業
- 6次産業化に関する起業
- きれいな水を活用した産品づくり（わさびなど）
- 川の水を利用して発電を行う
- 村づくり会社のようなものを作る
- ▼廃校を利用して企業を呼ぶ
- 目玉商品を作る
- ダムでの舞茸栽培
- 今あるものを活用
- ▼起業支援
- ▼川の水を利用した発電

シティセールス

- プレスリリースを書く
- 職場などで村のPRをする
- SNSが使えない人に教える
- ▼LINE公式アカウント
- ガイドブック作成
- SNSのシェア
- 村民が情報を知るしくみを作る
- ▼行政がわかりやすい情報発信をする

環境

- あいさつをする
- コンポスト活用
- ▼ポイ捨ての罰金が日本一高い条例をつくる
- ポイ捨て
- リサイクル<清川ジモティ>を作る

生活利便性

- 近所の買物を代行する
- LINEなどで村内の「お願いごと」と「やります」をマッチングする
- ▼頼みたい人とやってあげる人のマッチングを支援する

交通

- 近所どうしでの乗り合いをする
- 乗り合いバスの運転手を育成する

【Bグループ】



移住促進

- 空家の利活用の推進
- 空家の維持管理
- ▼幼小中一貫校をシティセールスし移住促進を進める
- ▼商業施設を増やす（日常生活品のコンビニ、スーパーなど）
- ▼親子で半日くらい楽しめる公園を整備する
- ▼雇用促進のため企業誘致

教育・子育て

- コミュニティスクールに協力する（授業のお手伝い）
- 幼小中一貫校の魅力を SNS を利用して PR していく
- 子育て相談室をつくっていききたい
- 経験者先生を作りたい
- 学校、幼稚園などの花壇整備できます
- 子どもの登下校の見守り
- ▼幼小中一貫校⇒交流促進
- ▼小学校低学年くらいの子どものあそべる公園を増やす
- ▼学校と各団体の間のパイプになってほしい
- ▼一貫校の校庭に多くの遊具を作っていただき、開放する

コミュニティ

- 地域の見守り隊を増やす

- 働くママ・パパの手助け、空き時間でベビーシッターする
- 村民の情報共有・発信する仕組み
- ▼公民館（各世代が集い、学び、楽しむ場）が必要
- ▼村民が自主的に行うベビーシッターの窓口、受付など業務の協力が必要
- ▼高齢者施設の統合⇒多世代交流促進
- ▼災害時の避難機能も備えてほしい

福祉

- 福祉に関するボランティアに参加する（若者の子育て支援・高齢者支援）
- ▼子どもたちと高齢者の交流の場がほしい

協働

- 村民1人1役、役割分担
- 自治会単位での当番制を広げ、発展させる方向で進めていく
- 自治会の当番（ごみ集積場の掃除、道路のごみ拾い、登下校の見守り、神社の掃除など）
- ▼若い世代に声をかけるなどの仕組みづくりへの支援

文化

- 八幡さんの掃除（ボランティア）存続のため
- ▼伝承の機会を作る（文化の担い手）ことへの支援

4. 第4回村づくりワークショップ

(1)開催概要

日 時	令和5年1月29日（日）午後2時～午後4時
場 所	生涯学習センターせせらぎ館2階・みどりホール
出 席 者	委員12名
内 容	(1)前回の振り返り (2)グループ討議 (3)発表・共有
検討テーマ	前回討議内容の具体化 ●村民ができること ▲支援を要すること

(2)討議概要

【Aグループ】



シティセールス：SNSのシェア

- 村のいい所の写真を公募する
- 無料で利用できる写真を村民から集める
- ▲村民が撮った写真を広報に載せる
- ▲無料で利用できる写真があることを周知する
- ▲LINEなどで村民に情報をお知らせ
- ▲村ホームページに村民が集めた写真を掲載するページを作成

観光：観光のストーリーを考える

- 村民の時間の過ごし方を公募する
- ヒットするイベントのアイデアを提言する
- 「清川時間」などをインスタグラムで発信
- ストーリーを考える組織を新しく作る
- ▲村民の時間の過ごし方を村で公募する
- ▲宮ヶ瀬の観光運営をコーエンに委託しているが自由度が少ない・・・しかし、村役場からコーエンに期待することを募る

産業：目玉商品を作る

- 村内企業とコラボして商品開発
- 竹炭、木サク液の製造→竹林の整備
- お茶、銘柄豚などの活用
- まちづくり会社を作って運営→全てボランティアでは立ち行かない
- みんなで空き時間を活用して活動する
- ▲コージーコーナーとの連携「ダムケーキ」など
- ▲まちづくり会社への支援（3年ぐらいの期限つきで）

環境：あいさつをする、コミュニケーション

- 村民、老若男女問わず、来村者にあいさつできる！
- 習慣づけできるように
- 顔見知りになるためのイベントを実施する（こどもによるおだんごづくり）
- 親世代が積極的にあいさつすることで子どももまねする
- 近所に住んでいる人の特技等をまとめたものを作る
- 「あいさつ村」のキャッチコピーを考える
- ▲「あいさつ村」などの看板をつくる

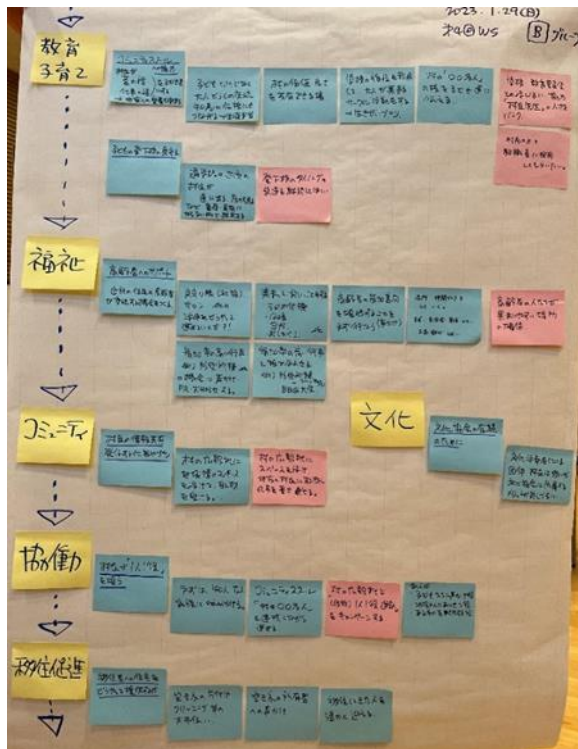
生活利便

- 自治会の活動を活発にできるとよい
- となり近所で声をかけあって実施
- LINEの講習会を実施する
- ▲高齢者にタブレット等を配布する

交通

- SNSなどを通じて運転してくれる人を募集する
- 通学・通園などの送迎をすることで雇用が生まれる

【Bグループ】



教育・子育て：コミュニティスクールへの協力

- 村民が昔の話・仕事の話子ども達にする→地域への愛着が深まる
- 子どもだけでなく大人どうしの交流。知恵の伝授にもつながる→生涯学習
- 村の価値・良さを共有できる場
- 学校の施設を利用して、大人が集まるサークル活動→生きがいづくり
- 村の「〇〇名人」の技を子ども達に伝える
- ▲ 学校・教育委員会との話し合い・協力「村民先生」の人材バンク
- ▲ 村民の方を教職員に採用してもらいたい

子どもの登下校の見守り

- 通学路の近所の村民が、道に出る・窓から見るなど、重荷・負担にならない形で継続する
- ▲ 登下校のタイミングの放送を継続してほしい

福祉：高齢者へのサポート

- 近所の住民と高齢者が交流する機会をつくる
- 見守り隊（社協）、サロン等の活動をどうやって進めていくか？！
- 参加率の高い行事（防災訓練等）の機会に声かけ・PR・お知らせする
- 防災訓練・クリーンキャンペーン+BBQ大会
- 集まって楽しいことをする。ラジオ体操・合唱・ヨガ・おしゃべり など
- 高齢者の参加意向を確認すること（声かけ）をまず行なう

●近所・仲間づくりをしていく。まず、自治会単位から・・・お茶飲みなど・・・

▲高齢者の人たちが集まりやすい場所の確保

コミュニティ：村民の情報共有・発信する仕組みづくり

●村の広報紙に地域情報のスペースを設けて取材を受ける

▲村の広報紙にスペースを設け、地域の村民に取材し、記事を載せる

協働：村民が「1人1役」を担う

●まずは、知人・友人・家族に呼びかける

●コミュニティスクールの「〇〇名人」と連携しながら進める

●「子どもたちに声かけ役」「地域の人にあいさつ役」「あるものを工夫する役」

▲村の広報紙で「(仮称) 1人1役運動」をキャンペーンする

移住促進：移住者への住宅をどうやって提供するか

●空き家の片付け、クリーニング等のお手伝い

●空き家の所有者への声かけ

●移住してきた人を温かく迎える

文化：文化協会の存続のために

●文化活動をしている団体・村民は多いが、文化協会に所属するメリットが見えづらい

5. 第5回村づくりワークショップ

(1)開催概要

日 時	令和5年3月5日（日）午後2時～午後4時
場 所	生涯学習センターせせらぎ館2階・みどりホール
出 席 者	委員 11名
内 容	(1)将来像・将来目標人口の振り返り (2)グループ討議 (3)発表・共有
検討テーマ	①村の将来像について ◆キャッチフレーズ ●キーワード ②将来目標人口について

(2)討議概要

【Aグループ】



将来像

- ◆山・川・緑
- ◆神奈川県で一番安全な村
- ◆何歳になっても出会いがある村
- ◆暮らし方をカスタマイズできる村
- ◆未来の子どもたちが輝ける村
- ◆一人一人が主役になれる村
- ◆神奈川県で住みたい村ランキング1位
- ◆大自然と子育ての村
- ◆多様な暮らし方ができる村
- ◆清流のある村
- ◆女性が活躍できる村

※方言が入っているといい

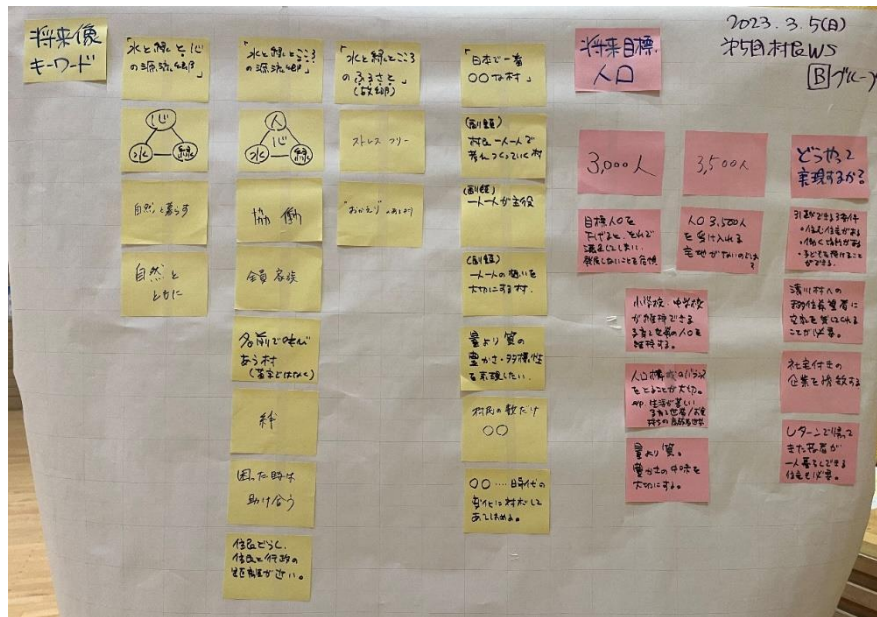
※最後は「村」でしめる

- ダブルワーク
- 週末農家
- 晩婚
- シェアハウス
- 単身者向けのアパート
- 「村」リーマン
- 安全性（食など）（水・空気）
- 食の安全性
- 色々な人が住む村
- 心がつながるコミュニティ
- 共助
- 村民多い
- 山と川
- 山々
- 水
- 山の緑
- 川をきれいに！川遊びができるような
- 流れる川
- エネルギー資源（緑・電力）
- 山なみ
- 神奈川県唯一の村
- ゆとりある子育て
- スローライフ
- ゴミのポイ出しがない

将来目標人口

- 2500～3000人
現状よりも微減でおさえる
- 3000～3500人
小中一貫校を魅力的にすることで転入者を増やす
やみくもに人口増を言うのは無責任
子供のための村
外国人など多様な人が暮らしやすい村にすることで人口増
- 3000人
現状追認では夢のある計画にならない
- 2500人
無理に人口を増やすのではなく、現状に合わせてインフラを縮小させる

【Bグループ】



将来像

◆「水と緑と心の源流郷」

- 水-緑-心の三角形
- 自然と暮らす
- 自然とともに

◆「水と緑とこころの源流郷」

- 水-緑-人の三角形+その中心に心
- 協働
- 全員家族
- 名前で呼び合う（苗字ではなく）
- 絆
- 困った時は助け合う
- 住民どうし、住民と行政の距離が近い

◆「水と緑とこころのふるさと（故郷）」

- ストレスフリー
- ”おかえり”のある村

◆「日本で一番〇〇な村」

- 副題：「村民一人一人で作ってつくる村」
- 副題：「一人一人が主役」
- 副題：「一人一人の想いを大切にする村」
- 量より質の豊かさ・多様性を表現したい
- 村民の数だけ〇〇
- 〇〇・・・時代の変化に対応してあてはめる。

将来目標人口

■3,000人

目標人口を下げると、それで満足してしまい、発展しないことを危惧
小学校・中学校が維持できる子育て世帯の人口を維持する。

人口構成のバランスをとることが大切。ex.生活が苦しい子育て世帯／お金持ちの高齢者世帯

量より質。豊さの中身を大切にする。

■3,500人

人口3,500人を受け入れられる宅地がないのでは？

小学校・中学校が維持できる子育て世帯の人口を維持する。

人口構成のバランスをとることが大切。ex. 生活が苦しい子育て世帯／お金持ちの高齢者世帯

量より質。豊さの中身を大切にする。

■どうやって実現するか？

引越しできる3条件

- ・住む住宅がある
- ・働く場所がある
- ・子どもを預けることができる

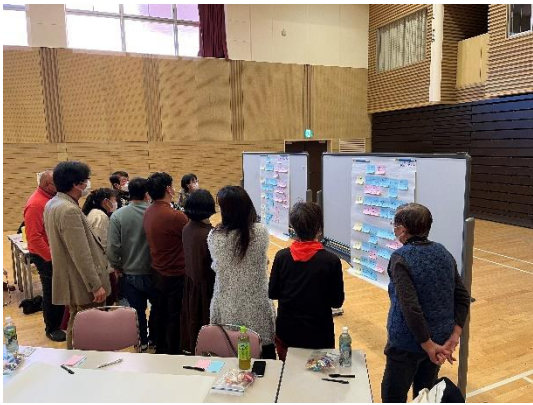
清川村への移住希望者に空家を貸してあげることが必要。

社宅付きの企業を誘致する

Uターンで帰ってきた若者が一人暮らしできる住宅も必要。

6. 村づくりワークショップの記録

(1) 討議のようす



(2) 委員名簿

No.	氏名	地区
1	朝倉大輔	煤ヶ谷
2	石川富美子	煤ヶ谷
3	大堀多恵子	煤ヶ谷
4	岡本一樹	宮ヶ瀬
5	岡本栞	宮ヶ瀬
6	岡本周也	宮ヶ瀬
7	加藤千枝	煤ヶ谷
8	佐藤綾音	煤ヶ谷
9	品川聖子	煤ヶ谷
10	橋本直人	宮ヶ瀬
11	藤田真義	煤ヶ谷
12	細野友美	煤ヶ谷
13	松田桂一	煤ヶ谷
14	山口志ず子	煤ヶ谷
15	山本華菜子	宮ヶ瀬
16	山本直弘	宮ヶ瀬
17	横山多喜子	煤ヶ谷

※五十音順

第4次清川村総合計画策定村づくりワークショップ提案書
第4次清川村総合計画策定村づくりワークショップ

発 行 令和5（2023）年3月

問い合わせ 清川村政策推進課

〒243-0195

神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷2216番地

T E L 046-288-1213

F A X 046-288-1767

M a i l kiyokawa@town.kiyokawa.kanagawa.jp